



カンボジアの子どもたちに教科書を

2012年12月 No. 43

カンボジア便り

市井秀治

子ども達へ教科書を配りました

前回のニュースレターでお伝えしたとおり、新学年度の始業に合わせて、教科書支援している11校の子ども全員に教科書を配りました。昨年の反省を生かして、初日の授業から全ての子どもが教科書を持って新学年をスターでき、当会としても結果を喜ばしく思っています。また、今年から予備の教科書を購入し、年度の途中で子どもが教科書を無くしてしまったり、頻繁に転入してくる子どもに対してもすぐに教科書を配布することができるようにしており、「どんな時でも常に全ての子どもが教科書を持っている状況」を目指しています。その為、今年は教科書支援による成果が完全に見て取れることが期待されます。



こんな時大人も子どもも必ず手を合わせます
方法がありません。また、記録が無いという問題だけでなく、記録の残っている数字（主に教育省に提出している数字）にも実態を反映していないものがあることが分かってきました。例えば、中退者に関しては、中退理由を詳細な書類で説明することが役所から義務付けられ、場合によっては学校に罰金も科せられます。その為、学校側は中退ではなく、説明を求められない留年扱いで処理

～目次～

カンボジア便り	
教科書を配りました	1
井戸修理・幼稚園の椅子を支援	2
ボランティアさんの感想	4
年次決算・予算報告	9
事務報告	10

一方で、肝心の支援の成果を図る定量的な物差しが無いという問題があります。日本の学校とは違って、教育省に提出しないといけないう年2回の試験結果を除いては、出席率や成績に関してどの学校も今まで記録を取っていませんでした。当会の支援と同時に出席率などの記録を取るようになり、毎年授業をしている先生は明らかに改善している様子を目で確認していますが、支援前の数字が残っていない為、当会として効果を測る方法

したいというインセンティブが働き、実態とは異なる中退者数や留年者数が報告されています。このような状況から、当会では今後より一層、学校に正確な記録を取ることを促していきたいと思います。



全ての子ども達に教科書が行き渡りました

その他にも多くの支援を行いました。Watkdol 小学校では、井戸が故障している為、子ども達が実質トイレを使用できないような状況になっていました。これに対して、当会の支援者でもいらっしゃる荒川未知様のご厚意で、井戸の修理（145 ドル）を行いました。

上述の通り、学校に子どもが来ない理由や中退・留年の実態が正確に把握されていない問題がある為、トイレが使えないことでどの位の女生徒が学校に来ていないのか定量的に測ることはできませんでした。ただし、トイレを下校まで我慢したり、最悪の場合草むらの影で女生徒がトイレをしないとイケないような状況はなくなりました。生徒からの感謝の気持ちを手紙で頂戴しましたのでご紹介します。



感謝の手紙を手に修理された井戸で

「Watkdol 小学校の生徒を代表して、井戸の修理のお金を援助してくださった ILAF に感謝します。井戸が修理される前は、お寺の池から水を汲んで持ってこなくてはならず大変でした。池はとても深いので、水を汲むのも大変でした。今は井戸が直ってとても楽になり、特に女子生徒は井戸の水はトイレになくてはならないのでとても助かっています。全生徒に代わって、今回の忘れられない親切な支援に大変感謝申し上げます。生徒代表 Veasna Srey Nuy (女子)」

ルセイサン幼稚園では、当会で臨時の先生を採用し、その先生に休みの期間家庭訪問を行ってもらい、子どもを幼稚園に送るよう啓蒙活動をおこないまし

た。その成果もあり、生徒の数は現在 45 人に達しています。

例年を上回る子ども数に対して、椅子が不足してしまっている為、椅子の支援（1 個約 3～3.5 ドルで 25 個購入）をしました。



椅子がなく床に座る子ども達

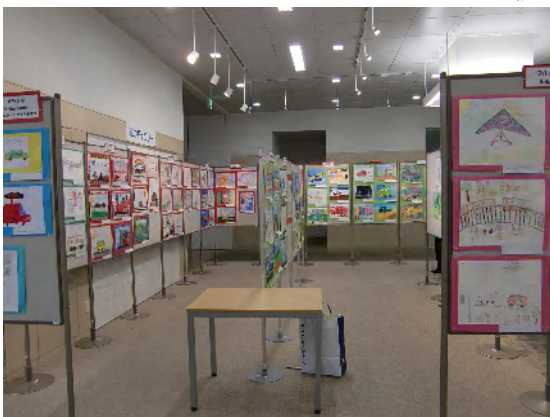


購入した椅子

生徒数の増加に応じて子どもの送り迎えをすることが出来ない親から、通園の安全のため、トゥクトゥク（三輪自動車のタクシー）のような子どもの輸送手段があれば、もっと安心して子どもを幼稚園に送れるし、また子どもの数ももっと増えるという声があがっています。当会では以前、同様の理由で通園バスの支援を 1 年間行いましたが、一定の成果はあったものの、車を用意するためにかかる費用と教科書支援によって得られる支援を比較すると、費用対効果という点でバス支援の継続を断念した経緯があります。その為、現段階ではバスよりも安価なトゥクトゥクであればやる価値があるのか、どのような成果が見込まれるのかなど、現地スタッフのリティさんに判断を任せ、リティさんから提案があれば当会として今後検討をする予定であります。この他にも、黒板の無い学校に中古の黒板 3 つ（45 ドル）を支援しました。

最後に、これまでリティさんが現地の活動で使用していた車のあちこちに不具合があり、走行中に突然エンジンが停止するなど安全面で大きな問題となっていました。現地の車は当会の活動にとって欠かせない物である為、これまでの車を売却（800 ドル）し、別の中古の車を購入（8,850 ドル）しました。

カンボジアの子供の絵が横浜で展示されました



当会の 2003 年以來のご支援者である柴田義之様のご紹介で、横浜市青葉国際交流ラウンジで行われた第 17 回国際児童画展に、カンボジアの No.9 校付属識字学校の子供たちの絵が展示されました。

アメリカ・ソマリア・ブルガリア・ポルトガル・ポーランド・ロシアの国々の子供たちの絵と並んでの展示でした。

ボランティアの皆さんの感想から

☆ニュースレター42号の発送作業

9月2日（日）ボランティア 19名 スタッフ 3名

ニュースレター発送作業を終えて

原 かえ

私は、ヒーリングサロンを営んでいます。私の所にいらっしゃる方はみなさん少なからず私の考え方と接点を持っている方たちです。長くそんな時間に身をおいておりましたので、仕事以外で人々の中に入って行きたいと思い、インターネットで見つけたこちらのボランティアに参加いたしました。今回は参加者と話したりコミュニケーションを取ることはありませんでしたが、とてもいい経験ができました。今まで私はニュースレターを受け取る側を経験したことはありましたが、それを送る側を経験したことがありませんでした。日韓アジア基金では、一通一通のニュースレターに手書きのメッセージを書いています。その手作業によって人のぬくもりが込められていきます。経済的なサポートをしている人、自分の時間と労働力を使うことでサポートをしている人、また、それを受け取る子供たちのことを想いました。そして、このカンボジアに向けて活動をしている全ての作業に、人のぬくもりが込められていることを想いながら、メッセージを書きました。

この団体を設立した方は、この活動を通じて日本と韓国の交流を目指していたと聞きます。それは本当に素敵な発案で、素晴らしい志だと思います。けれど、今は以前いらした韓国の方は皆卒業してしまったとのことでした。そのお話をしてくださったリーダーの方たちも、とても素敵な方たちでしたが、ニュースレターの一通通にメッセージを書くあの空間に日本人と韓国人が一緒にいたら、どれだけ感動的で意味深い時間になるだろうとも感じました。

こんな素敵な機会を提供していただき、どうもありがとうございました。

ニュースレター発送作業の感想

高校生 高間 恵

ニュースレター発送作業ボランティアに参加した理由は、学校でボランティアをするという課題がでたとき、どうせなら自分の興味のあるものに参加しようと思ったためです。日本にしながら、国際社会に貢献することができるという点にとっても興味を引かれたのも、今回参加した理由の一つでした。

ボランティアとして何をするのか、申し込んだ当初はまいまいわからず不安でいっぱいでした。でも事前にパンフレットを送っていただいたり、当日に詳しい説明を聞いたり他のボランティアの方々に教えていただいたりして、安心して作業をすることができました。

ボランティアに参加するのは初めて、今回の参加も学校の課題ということだったので、あまり積極的な姿勢ではなかったのですが、資料をみたりお話を伺

ったりし、実際に参加することで、国際社会に貢献できたと思えて、とても充実した時間が過ごせてよかったと思いました。

作業は単純なものでしたが、パソコンではなく手書きでメッセージを書いて相手に伝えるということは、予想以上に時間がかかりました。しかしこの手間が相手に気持ちをしっかり伝える為には、とても大事なことであったと実感いたしました。

今回参加して、たくさんの学びや刺激や驚きをありがとうございました。これを機に、いろいろなボランティアに参加したいと思っています。

☆ 第 17 回 ビビンの会

9 月 22 日（土）（アジア文化会館）

お客様 34 名 スタッフ 13 名（内当日ボランティア 8 名）募金 14,100 円

ビビンの会・グループリーダーを務めて ボランティア 久保田 裕美

先日は、ビビンの会最後まで大変お疲れさまでした。予想よりも多く、新しいお客様がきてくださって驚きました。

どこのグループも非常に個性的な人たちが集まり、まとまりがよかったようで、



周りのテーブルを見ても楽しそうなムードが感じられました。さて、今回は 2 回目のグループリーダーでしたが、私自身もお客様の協力的でかつ積極的な姿勢に大変助けられました。

会が始まる前のミーティングでシン君が「プログラムはこうなっているけど、もうその場のムードで進行してかまわないですよ」と

言ってくれたのに、すごく救われました。なぜなら私はもともと、人の先頭に立ったり、まとめたりすることがあまり得意ではないからです。どちらかというと、縁の下の力持ち的なほうが好きなので。でも、グループの中でもうムードが出来上がってきたらそれをあえて壊そうとはせずに（個性的なお客様が多いだけに、筋書きどおりに進めようとする逆効果だと思いますし）自分は合いの手を打ったり、自己紹介を聞きながらグループ内の人たちの共通点を探ったり・・・リーダーだからこそ、あえて先頭に立たず、リスナーに徹しようと思いました。その甲斐あってか、



会が始まってからはあまり肩の力が入ることがなかったように思います。メンバーのある人から「久保田さんがリーダーで面白かったです」という言葉を頂いた時はほんと、感動ものでした。

そういえば、20代のころに就職活動で受けた面接で出会った責任者の方がこうおっしゃっていました。私が「話が本当に下手なので、とくに集団面接のときはアピールがなかなかできなくて失敗する」という話をしたときのことでした。その責任者の方は・・・

「小川さん、そこが落とし穴なんです。多くの会社は集団面接の時、とにかくアピールできている子ばかりに目が行きがちです。グループで何かをしようとするときにただ意見を出し合うだけでは收拾がつかなくなるのと同じように、面接ではアピールできる力よりも、相手の話をきちんと聞けることのほうがもっと大切だと私は思います」

たぶん、あの日も私の頭のどこかで、このフレーズがちょく



ちょく顔を出していたからかもしれません。当初はどうなることかとおもったグループリーダーの仕事でしたが、本当に楽しかったです。地方（熱海市）に住んでいるため日常活動には参加しにくいですが、こういうイベントで協力させていただければと思っています。

私が日韓アジア基金の存在を知って10年になりますが、今までお会いしてきたスタッフさんは、どの方もみなさん心がオープンで朗らかで明るくて素晴らしいですね。自分はどちらかというとあまり人間関係のうまいほうではないのですが、なぜかどの方とも初対面ですぐに打ち解けることができました。それはきっと、皆さんの、ひとりひとりの個性を大切に作る心が自然に伝わってきたからだと思います。だから、こんな素敵な人たちとのつながりはいつまでも大切にしたいと思っていますし、自分もそうでありたいと思います。

私…いまは病院勤務ですが、年齢があるところに達したら、地元で国際交流に少しでも貢献できるような活動をしたいなあとひそかに思っています。しかし、静岡県、特に熱海市はあまりそういう活動が乏しく情報がありません。ちょっと今から色々と情報を集めようかと思っています。

東京はそういう場がいくつもあっていいなあとしつつ、ちょっと住む勇気はないのですが(笑)特に何をやりたいのかもはっきりさせる必要もありますし、実行するにはまだまだ時間がかかりそうですが、少しずつ動きたいと思っています。



私は今回初めてビビンの会に参加させていただきました。韓国だけでなく、スウェーデンや中国からの友人とともに大変楽しむことができました。それにはいくつか理由があります。

まずは、人の多様性です。高校生や、大学生、社会人といった年齢の違いだけでなく、様々な国籍や海外経験を持った方々が会場にいたことで、ただの雑談ですらとても勉強になりました。みなさんが全員フレンドリーであったことも会場の雰囲気をよくしていた要因だと思います。

また、イベントに関してもフリートークだけでなく、他己紹介やディスカッションを通じて、日本文化と異国文化の違いを理解することができました。ディスカッションのテーマをひとつに絞らなかったことで、いくつもの角度から日本と他国の文化の違いを知ることができたのも良かったと思います。食事会でも多くの人とお話を交わし、僭越ながら私自身の見識を広めることができました。

参加費の一部がカンボジアの子供たちの教科書購入に使われるというコンセプトにも大変共感しました。ただ楽しむだけではなく、その行為を通じて社会の役にも立てるイベントは簡単にはみつからないでしょう。ぜひ次のイベント時にも多くの友人を連れて、また参加させてもらいたいと思います。

☆グローバルフェスタ（GF） 2012（日比谷公園）

2012年10月6日（土）・7日（日）ボランティア 17名 スタッフ 9名

配布パンフレット 1845部 募金 66,810円

GFのボランティアに参加して

高校生 ソン・ヒョンジュン

私は韓国人で、今は東京韓国学校高等部2年生に在学中のソン・ヒョンジュンです。昨年に引き続き今年も日比谷公園で国際協力の日で開催されるフェスティバルに参加して、ボランティア活動をしたと思っていました。

インターネットで私が奉仕したいグループを探していたら、「日本と韓国の若者たちが協力して、アジアの恵まれない環境にある人々を支援しながら、お互いを理解して一緒に歩みだそう」という願いの基に、韓国人留学生によって設立された“日韓アジア基金”という団体があることを知りました。

教科書がなくて、勉強をしたくてもすることが出来ないカンボジアの子どもたちに、教科書を支援して子どもたちに夢と希望を与えようとする目的を知って、ボランティアとして参加することにしました。

二日間とも活動したかったのですが、学校の文化祭行事と重なって日曜日の

み参加することになりました。日曜日は朝から雨が降りだして心配でしたが、午後には雨があがってほっとしました。雨が止んでからは来場者の数もどんどん増えて行き安堵しました。

募金活動を始めるとき、79 円でカンボジアの子供たちに教科書一冊を買ってあげることができるという事実を知りました。私は少ないお金でも発展途上国の子供たちを助けることが出来るということに驚きを感じましたが、その一方、このような小さな援助が十分に行われていない現状について切なさを感じました。ガイドに印刷されていた教科書を貰えて喜ぶ子供の写真が大変印象深かったです。

カンボジアの子どもたちが希望と未来への夢を持てるように助ける“日韓アジア基金”のすべての方々の情熱が、これからもずっと持続することを心から深く願っています。一日だけのボランティアでしたが、自分だけ幸せに生きて行くのではなく、皆と一緒に仲良く生きるべきだと思う私にとっては、将来の大切な希望である子どもたちを支援する活動は実に有意義でした。

☆ アジア文化会館（ABK）秋祭り

10 月 27 日（土） ボランティア 11 名 スタッフ 4 名

配布パンフレット 80 部 募金 11,692 円

第 18 回 ABK 秋祭りに参加して

高校生 上澤 由樹

今回初めて日韓アジア基金のボランティアに参加させて頂きました。認定 NPO 法人などでのボランティア経験はなく、また 1 人での参加だったため緊張と不安でいっぱいでした。しかし、事前に当日のマニュアルやパンフレットを送っていただいたり、連絡や質問もできたのでとても良かったです。

私は韓国人の友達ができてから、韓国文化やハングルが好きになり、同時にアジアにも興味を持つようになりました。様々な国籍の方やアジア文化にも触れることができ、少しでも国際社会に貢献できるならと思い参加を決めました。

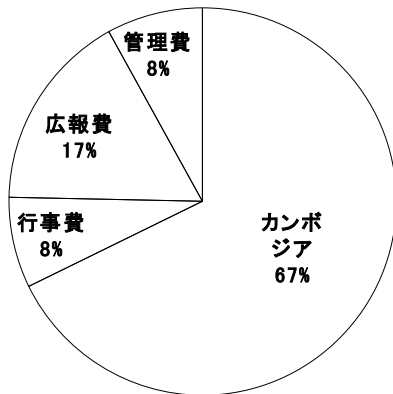
当日は韓国茶の無料サービスや募金・宣伝活動のほかに、カンボジアブースのお手伝いもさせて頂きました。最初は思うようにできないこともありましたが、スタッフの皆さんや留学生の方々のおかげで、学校の文化祭のように楽しく活動することができました。ブースに来てくださった方の中には、活動内容に興味を持ち質問される方や、カンボジアの教科書をじっくり見てくださる方、話を聞いて募金してくださる方など、「自分でも役に立てた」と実感することができ、とても嬉しかったです。最初から最後までノンストップで大変でしたが、すごく充実した時間を過ごさせて頂きました。

また ABK 秋祭り後の懇談会にも参加し、様々な国籍・年齢の方と各国の美味しい料理を食べながらお話ができ、とても良い刺激になりました。友達もできて本当に楽しい一日でした。

お金の使い途を中心にした決算報告と予算

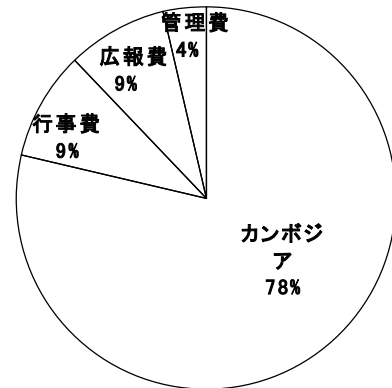
日本

平成 23 年度支出
(平成 23 年 7 月～24 年 6 月)
総額99万円



- ・カンボジアの費目別内訳は下記に示します。
- ・行事費はビビンの会の開催費用で、参加者の会費との相殺になっています。
- ・広報費は、ニュースレター発行費用が 65%(11 万円)、ブース出展費が 20%(3.4 万円)を占めます。
- ・支出に占める管理費の割合が低いのは、国内スタッフが全員無給ボランティアであり、交通費等の経費も全額個人負担であること、事務所家賃がアジア文化会館のご好意で無償である等、当会独特の事情によります。

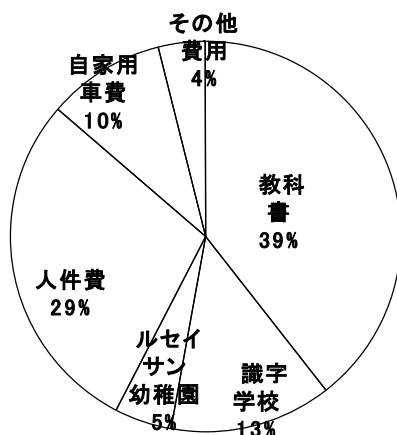
平成 24 年度予算
(平成 24 年 7 月～25 年 6 月)
総額194万円



- ・カンボジアの費目別内訳は下記に示します。
- ・今期は現地の乗用車の代替（80 万円）を予定しているため支出総額が増え、カンボジアの割合が大きくなります。
- ・行事費はビビンの会の開催費用で年間 4 回開催の計画です。費用は参加者からの会費との相殺になります。
- ・広報費は前年並みと考えています。

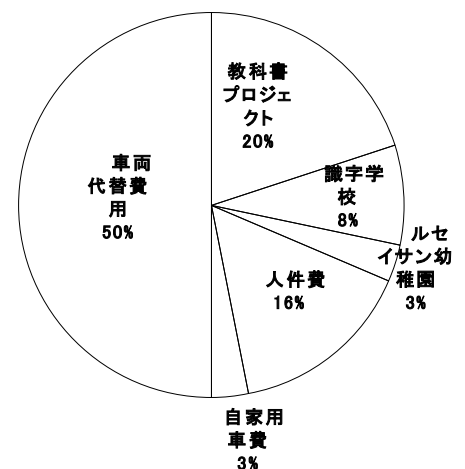
平成 23 年度支出
総額10,500ドル

カンボジア



- ・教科書支援は 11 校に 4,060 冊、4,151 ドルでした。
- ・識字学校支援は教員の給与 1,080 ドルと教室の家賃 240 ドルが主なものです。
- ・人件費はリティ氏の給与です。
- ・車両が劣化し自家用車費（修理費）が増えています。

平成 24 年度予算
総額19,400ドル



- ・自家用車が劣化し、路上故障も頻繁に発生しており、リティ氏の安全面からも代替をせざるを得ないと判断しました。10,000 ドルを見込んでいます。
- ・教科書支援は 11 校で 4,000 ドルを予定しています。
- ・識字学校支援は教員給与 1,320 ドル、家賃 360 ドルが主なものです。
- ・幼稚園支援は教員の給与 600 ドルが主なものです。
- ・人件費・その他経費は前期実績並みと考えています。

ビビンの会を開催します

日時 12月22日(土) 15時～18時(受付開始14時半)
 場所 アジア文化会館 101教室
 会費 500円(室料・茶菓代200円 カンボジアへの支援金300円)

終了後アルコールと軽食付きの懇親会を行います。
 18時半～20時半
 会費 社会人 2,000円 学生 1,000円 留学生 500円

当会イベントにボランティアスタッフとして参加下さった方(敬称略・五十音順)

2012年9月2日 ニュースレター42号 発送作業

新井祥子・有馬美代・飯泉由紀子・伊藤雄大・大谷真宏・北川莉夏・北村宏大・木内佑樹・
 桑本巖・杉山ちひろ・高間恵・中川沙紀・蓮見えりか・原かえ・広瀬礼佳・広瀬富子・堀真紀子・
 宮田佳世子・八木沢優衣

2012年9月22日 第17回ビビンの会グループリーダー

秋山卓澄・新井利延・上出洋生・霧山祐司・久保田裕美・小森新・Hyun-Ah Ebi Bang・
 松田えり子

2012年10月6・7日 グローバルフェスタ2012ブーススタッフ

青木まどか・岩谷華衣・亀谷愛美・神林祐里佳・倉持遥・小牧美穂・成炫駿・玉造若菜・
 塚田絢子・新妻佳子・早川中・藤野屋茜・丸川映美・森田悠子・矢嶋祐利恵・山田麻里・
 吉田拓巳

2012年10月27日 アジア文化会館秋祭り2012ブーススタッフ

大山菖・笠原祐子・上澤由樹・小峰麻奈・小峰アリアナ ジャスミン・佐藤真波・末吉昂・
 久森裕子・富居友美子・藪田滋之・匿名1名

2012年8月22日～2012年11月15日に会費・ご寄付を下さった方 敬称略・五十音順(別枠除く)

荒川 未知	岩見 豊子	語ろう会	神戸 博子	黒巢 香	合田 稔	齊藤 乃章
佃 吉一様	波多野 淑子	堀内 和子	前島 盛一	松本 博一・操	松本 昌幸	丸山 美津子
丸山 芳彦	矢崎 芽生2回	柳田 文子	山崎 杜子	兪 和暎2回	吉永 弘子	

ビビンの会募金 ABKフェスタ募金 GF2012募金 イーココロ! 匿名寄付

ご入会・ご寄付のお願い

活動会員:年会費 5,000円(学生、未成年者 2,000円)
 賛助会員:年会費1口5,000円(学生、未成年者 1口2,000円)
 法人会員:年会費1口10万円
 ご寄付:2,000円以上おいくらでも

<郵便振替口座>

口座番号 00180-2-25153
 口座名 日韓アジア基金

- ・活動会員:活動に積極的にご参加頂ける方。総会での議決権があります。
 - ・賛助会員:定期的にご支援頂ける方。
- ご支援下さった方には「日韓アジア基金ニュースレター」をお届けします。

<お問合せ先>(日本語でお願いします)

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館(ABK)内
 Tel:090-4456-2942(庶務・会計担当 大澤) FAX:03-3946-7599(ABK)
 E-メール: ilaf@iloveasia2.sakura.ne.jp
 HP: 検索サイトで「日韓アジア基金」で検索なさってください。
 発行人 特定非営利活動法人 日韓アジア基金・日本 代表理事 江本 哲也